

# 東区 E 産探求プロジェクト

## 「臨港貨物線コース」参加レポート

新潟デザイン専門学校グラフィックデザイン科 1年 犬塚暁都

私は 11 月 23 日に東区主催で行われた「東区 E 産探求プロジェクト」のまち歩きイベント「臨港貨物線コース」に参加しました。当日はあいにくの雨模様で、一部スケジュールを変更しての開催となりましたが、無事に当日を迎えることができました。

今回のまち歩きは、東区の貨物線の歴史を通じて、新潟の物流拠点について学ぶことをテーマとして行われました。まず、私たちは東区役所からバスで JR 貨物が運営する JR 焼島駅へ向かいました。この駅は、工場で製造された製品を輸送する貨物専用の路線上にあり、重要な物流拠点の一つです。現在も紙製品を中心とした貨物輸送が行われており、特筆すべき点は、この路線が電気ではなく軽油を動力とするディーゼル車で運行されていることです。貨物線での輸送は、トラックより燃料消費や CO2 排出量が少なく、焼島駅からは 1 日に約 10 トントラック 50 台分を輸送しています。これらの特徴から、鉄道輸送が新潟市東区の産業を支える重要な存在であることを改めて実感しました。

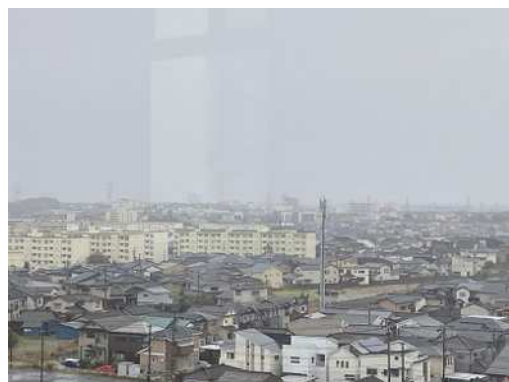


次に向かったのは焼島地藏尊です。本来は焼島駅から徒歩で向かう予定でしたが、悪天候のためバス車内から説明を聞く形となりました。焼島地藏尊は、焼島潟（大正時代に埋め立て）での水没者を弔うために祀られたものです。この地藏尊は、新潟特有の地形や厳しい自然環境を背景にした歴史を感じさせるものでした。

その後、バスで臨港埠頭に向かいました。臨港埠頭は、リンコーコーポレーションが管理する日本で唯一の私有の港で、新潟から全国や海外へ製品を輸送しています。

1970年代には貨物線が敷設されていましたが、現在鉄道輸送は行われておらず、港での運送が中心となっています。この港には、かつて牧場だった土地を海運業に転換したという興味深い歴史があります。現在も新潟の物流を支える重要な拠点として、民間によって運営されています。

バス車内から臨港埠頭を見学した後は、山の下みなとタワーに移動しました。タワーからは東区と中央区を一望でき、雨の中でも遠くまで見渡せました。また、東新潟港駅へ続く路線跡も確認でき、住宅地の間を通る道路がかつての線路に沿っている様子を高所から確認することができました。地上では目立たない跡地ですが、上から見るとその存在がくっきりと浮かび上がります。



最後に訪れたのは東新潟港駅です。小雨が降る中ではありましたが、天候が落ち着き、駅までの道を歩くことができました。この道は、運行が休止された当時の状態がほぼそのまま残っており、線路の構造や接続の仕組みを間近で観察することができました。東新潟港駅の駅舎も当時の姿を保っており、実際に使われた設備や機材を見学できました。



今回のまち歩きを通じて、東区の貨物線の歴史と現在の役割について深く学ぶことができました。普段何気なく通り過ぎてしまう場所にも、多くの歴史や産業の重要な要素があることに気付かされました。これらの物流や施設が、私たちの生活を支えている事実を改めて考える良い機会となりました。このような場を提供して下さった関係者の皆さま、そして道中さまざまな話題を共有して下さった参加者の皆さまに心から感謝申し上げます。